

透析掻痒症に対する 当院の取り組み

太田ネフロクリニック

◎岩下愛莉 高橋智仁 佐藤梨理子
二階堂剛史 酒井伸一郎

勝田皮膚科クリニック
柳澤宏実

目的

透析掻痒症は、不眠などを引き起こし、著しくQOLを低下させている。今回我々は、このQOLを高めるため、全患者にアンケート調査を行い、掻痒を訴える患者数とその程度を把握し、スキンケアを見直した内容の生活指導を行い、掻痒の改善の評価を行った。

対象

当院の慢性維持透析患者220名中、かゆみを強く訴える37名（男性14名、女性23名）

平均年齢66.3±12.1歳、平均透析歴6.0±6.2年

方法 1

1. 『かゆみについて』のアンケート

①かゆみを強く訴える患者37名に
指導前と指導後の2回実施した

(Behavioral rating scale :BRSで記録)

2. 6ヶ月間の持続的スキンケアと生活指導

①対象患者へ順次スキンケア用紙を
用いて説明する(生活指導の徹底)

方法 2

- ② 毎回透析前に、スキンケア用紙を参考に爪のケアと患者に合わせた保湿効果のあるワセリンや尿素剤、ヘパリン類似物質を塗布する
(外用剤は指導前後で同様の物を使用)

- ③ 塗布の量は手の平の範囲に塗る場合、軟膏やクリームは人差し指の先から第一関節まで伸ばした量、ローションは1円玉大の量とした

方法 3

④透析終了後も、自宅でも施行してもらえるように、本人だけでなく家族や施設の方々へ連絡帳を使用し、情報の共有を行った

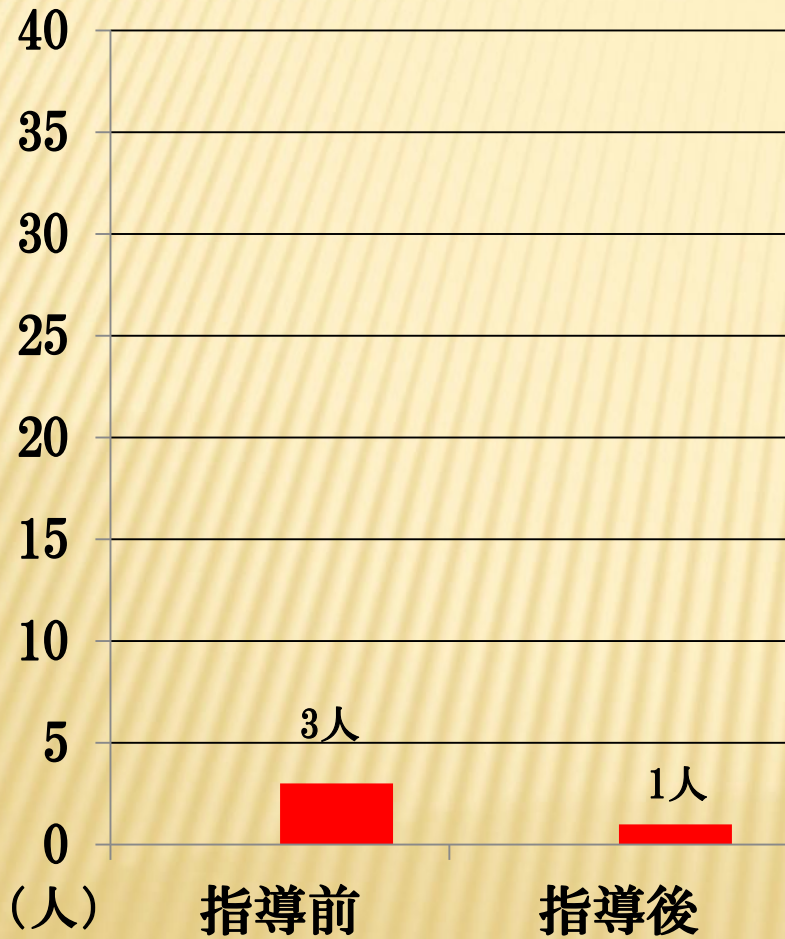
⑤指導期間内は内服、透析条件は同様とした

3. かゆみの改善度の評価(BRS)

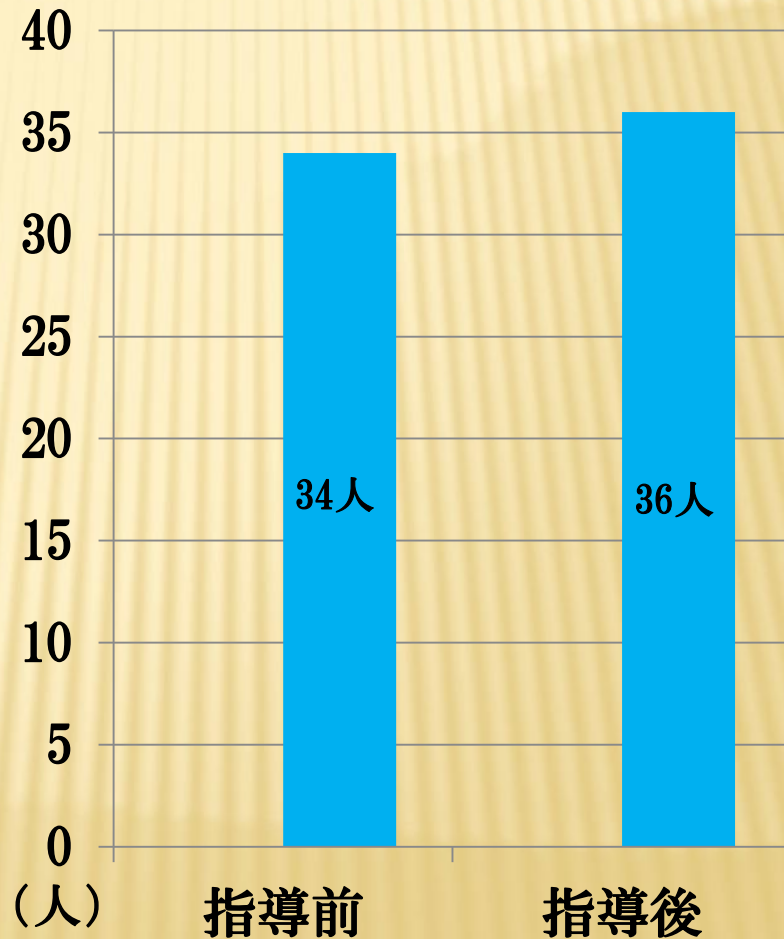
0～2を軽症、3以上を重症とした

《昼間》 かゆみの程度評価

重症者

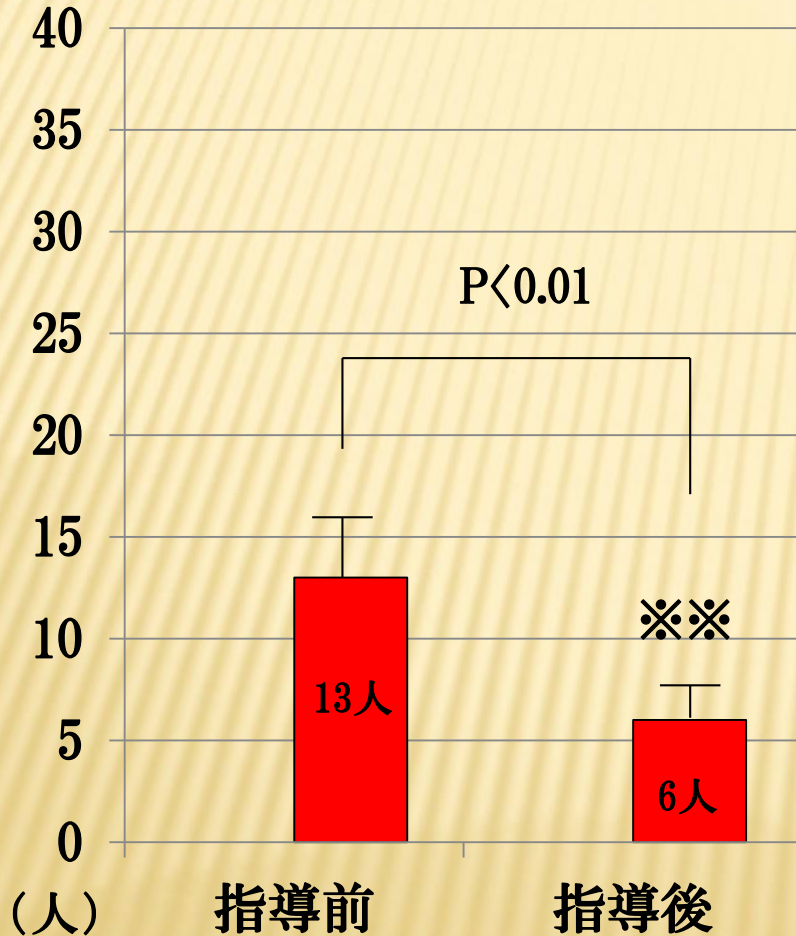


軽症者

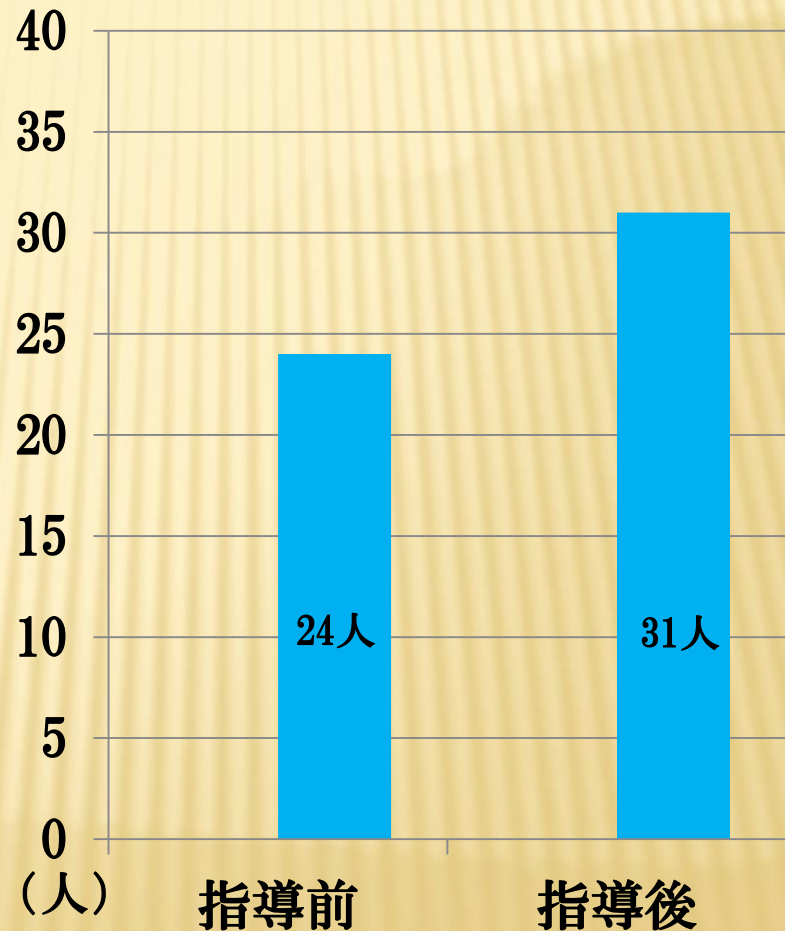


《夜間》 かゆみの程度評価

重症者



軽症者

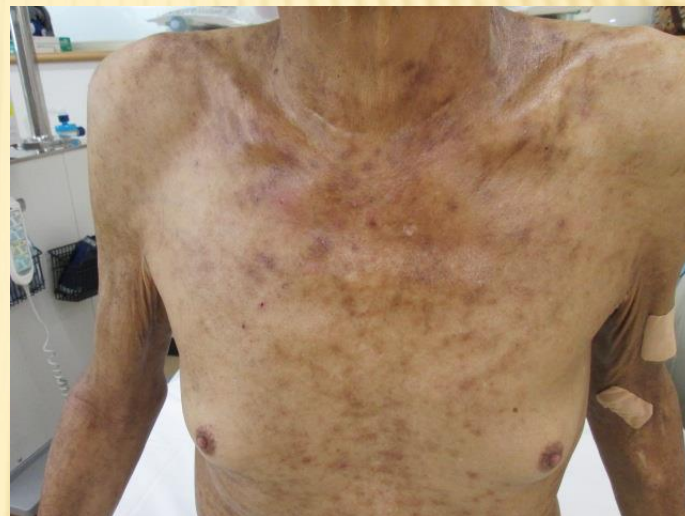


重症者で改善が見られなかった1症例

指導前



指導後



結果

1. スキンケアを欠かさず6ヶ月行い、生活指導を併用したところスキンケアの前後で夜間のかゆみの程度に有意な改善を認めた
2. 重症者の中には、スキンケアを行っても軽度の改善しかみられなかった症例もあった

考察

処方や透析条件を変えずに、スキンケアを見直した生活指導を行ったところ、かゆみの軽減が見られたため、スキンケアを基本とした上で治療方法を選択していくことが重要だと再認識させられた。

重症者の中で軽度の改善しかみられなかった症例に対しては、掻痒の悪化因子のひとつとされるストレス緩和も図り、継続的な生活指導と外用薬等の見直しをしていきたいと考えた。

日本透析医学会学術集会・総会

COI 開示

筆頭発表者名：岩下 愛莉

演題発表に関連し、開示すべきCOI
関係にある企業などはありません